

世界の平和のために～世界はつながっている～

1 主 題 平和について考えよう

2 主題・教材について

世界では、今も戦争や紛争が跡を絶たない。しかし、日本で暮らす子どもたちにとって、これらは遠い世界の出来事として映り、自分の目の前の平穏な状況が当たり前のものや永久に続くものとして受け止められていることが多い。

しかし、身近な人間関係に目を向けると、ある違いだけを取り上げて少数者を排除したり、自己の意見や立場さえ守ることができれば、他者のことには関心を寄せなかったりといったよくない風潮も見受けられる。その中で、いじめなどの平和とはほど遠い問題が生じている。

ジャーナリストである山本美香さんは、様々な戦地での取材を通して、一度始めた戦争は多くの憎悪や不信を生み、再び平和な暮らしを取り戻すことが困難であることや、多くの人々、とりわけ子どもたちが犠牲になっていることを伝えてくれた。また、私たちの日常生活の中にも、同様の争いの芽が見え隠れしていることも指摘してくれた。

この教材を通し、世界の平和と自分たちの暮らしとを重ね、誰もが安心できる平和な日常を維持していくためにはどうすればいいのかを考え、平和のために行動しようとする態度を身に付けさせたい。

(関連教科・領域：道徳、総合的な学習の時間、特別活動)

- ## 3 ねらい
- ・誰もが安心できる暮らしを実現しようとする意欲を高める。
 - ・世界の平和のために、自分にできることを考え、実行する。

4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	「戦争をはじめてはいけない」という思いを受け止めよう。		
	・本文 (P.96 L.1～L.7) を読み、「戦争をはじめてはいけない」という筆者の主張を確認する。 ・筆者のプロフィール (P.101) を読む。 ・アメリカ同時多発テロ事件について知る。	・命をかけて戦地を取材し、人々にメッセージを送り続けた筆者の姿から、主張に込められた思いの強さに迫らせる。 ・資料などにより、アメリカ同時多発テロ事件について解説する。	資料 1
展開	戦争が始まってしまうと、どのようなことが起こるのかを知ろう。		
	・本文 (P.96 L.8～P.99 L.4) から、戦争が始まってからのアメリカの様子を読み取る。	・キーワードを通して以下のようなことを考えさせたい。 * 愛国心→強調されることにより、「敵がい心」があおられる。 * ヘイト・クライム→罪のない人までを一括りにして、攻撃が行われる。 * 人種のサラダボウル→多種多様な人がいることの良さが失われ、自由が奪われている。	
	「心の距離をちぢめる」ためにはどうすればよいかを考えよう。		
	・本文 (P.99 L.5～P.100 L.7) を読み、	・「地球規模で考え、地域で行動する	付箋

展 開	「『心の距離をちぢめる』ためにはどうすればよいか」をテーマに、グループでディスカッションを行う。 ・出された意見を全体に発表する。	(Think globally, Act locally.)」という言葉を紹介し、「平和という大きな目標に向かって、自分が日常的にできることを考える」よう指示する。 ・ブレインストーミングやKJ法で、より多くの意見が出るように工夫する。	画用紙 マジック など
ま と め	学習したことをふり返ろう。 ・本文(P.100 L.8～おわり)から、筆者が託した思いを読み取る。 ・筆者にあてて手紙を書く。	・筆者が本文執筆後、シリアでの取材中に銃撃を受けて亡くなったことを再確認し、筆者の平和にかける強い思いを受け止めさせたい。 ・「ユネスコ憲章」を紹介することも考えられる。	資料2

5 発展

筆者にあてた手紙を発表し合い、全体あるいはグループで交流することで、考えや思いを深めていくことも考えられる。

《資料1》

・アメリカ同時多発テロ事件

2001年9月11日にアメリカ合衆国で発生した、航空機を使った4つの自爆テロ事件の総称。ハイジャックされた民間航空機が使用された史上最大規模のテロ事件であり、全世界に衝撃を与えた。ハイジャックされた民間航空機は、2機がニューヨークの世界貿易センタービル(WTC、南北2棟)、1機が首都ワシントンの国防総省ビルに衝突、もう1機がペンシルベニア州ピッツバーグ郊外に墜落し、3,025人の死者を出した。

アメリカ合衆国政府は、このテロ攻撃が、イスラム過激派、サウジアラビア人のオサマ・ビン・ラディンをリーダーとするテロ組織「アル・カイダ」によって計画・実行されたと断定。彼らが潜伏するアフガニスタンのタリバン政権に引き渡しを要求したが、タリバン側は引き渡しを拒否したため、2001年10月、アメリカ合衆国軍がアフガニスタンのタリバン政権に対して攻撃を開始し、タリバン政権を崩壊させた。

・アフガニスタン・イスラム共和国

1979年にソ連軍が侵攻してから長い間戦争が続いていたアフガニスタンに、イスラム原理主義勢力「タリバン」が突如現れ、1996年に首都カブールを制圧し、全土を支配した。タリバンは、厳格なイスラム法を取り入れ、犯罪を取り締まったことで、悪化していた治安を回復させたが、その一方で、テレビ、ラジオ、音楽等の娯楽や様々な行事を禁止したり、女性の就学や就職を認めなかったり、民衆の生活も厳しく取り締まった。

2001年9月11日、アメリカ同時多発テロ事件が起き、当時のブッシュ米大統領は、テロの首謀者をアル・カイダの指導者、オサマ・ビン・ラディンと断定。ビン・ラディンはタリバン政権に匿われていたため、アメリカはビン・ラディンを引き渡さないなら攻撃すると宣言し、テロから約1か月後にアフガニスタンへの空爆を開始した。1か月余りの攻撃でタリバン政権は崩壊した。

その後、アフガニスタンには、国際治安支援部隊(ISAF)が駐留し、世界各国の支援も受けながら、戦後復興のプロセスを進めているが、貧困、失業、汚職、麻薬などの社会問題は解決せず、さらにタリバンが再び力をつけ、勢力を拡大しているため、国内の混乱は続いている。

・イラク共和国

イラクでは1979年から2003年までサダム・フセイン大統領が政権の座につき独裁者として君臨していた。1980年から1988年にわたってのイラン・イラク戦争では北部のクルド人が住む地域に毒ガス攻撃をしたことで国際的な非難を浴びた。その後1990年にクウェートに侵攻、国連がクウェートからの撤退を求め、イラクが拒否したため湾岸戦争に発展した。

2003年、ブッシュ米大統領は、イラクが大量破壊兵器を隠し持っている、また、アル・カイダを支援しているとしてイラク戦争に踏み切った。連日の激しい空爆でフセイン政権は崩壊したが、結局大量破壊兵器は見つからず、アル・カイダとの関係も証明できなかった。

《資料2》

国際連合教育科学文化機関憲章(ユネスコ憲章)・前文より抜粋

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。